



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX：0467-47-1164 木曜を除く 10時～16時
Web URL： <http://www.yamasaki-yato.sakura.ne.jp> E メールアドレス： ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

3/19 フォーラム会場風景



次の一歩を踏み出します！
節目を終えて

もくじ

☆10周年記念フォーラム報告→2・3p ☆各班からのお知らせ→4・5p ☆谷戸の自然だより→6p ☆谷戸往来→p 7
☆5～7月の日程表（裏表紙）

時ならぬ風雨や寒暖の差に振り回される季節の到来です。サクラが散り、木々の濃淡の緑はあっという間に濃くなり、いよいよ農繁期の始まりです。鎌倉中央公園と同一年の当会のお祝いは、盛大に終えることができました。当日や鎌倉地下道ギャラリー展を逃した方は、今号の報告欄と次号からの連続紹介をお楽しみに。次々と芽していく谷戸の草、木、花を愛でつつ、農作業と仲間との触れ合いに勤んでください。

ご報告 10 周年記念フォーラムが盛大に行われました 3/19(土)

2004 年に発足した当会は 10 周年が経過し、鎌倉中央公園も全面開園から 10 年が過ぎました。これをひとつの区切りとして、鎌倉市との共催で 10 周年記念フォーラムを鎌倉生涯学習センターで開催しました。当会会員をはじめ、市内の里山保全団体の方々、青空自主保育団体の若い親子など、幼児も含めて総勢 174 名が参加。古くから活動を知る人は昔を懐かしみ、これからを励ましてくれました。初めて来訪して新しく参加してみたいという方もいて、多様な人々が盛況に終えることができました。祝賀会では近隣の方々、保全団体、市職員のみなさんとの交流をさらに深め、互いに活動発展のためのエールを送り合いました。事務局員をはじめ、日々活動に励んでいる会員にとっても、会の活動のすばらしさを改めて感じ、新たなステップへの力が湧いた 1 日でした。

第 1 部 来賓挨拶 ～ 思い出を語る

市長からの励ましの言葉に始まり、長い間お世話になった方、市内の里山保全団体、谷戸で育った子どもたち、谷戸の体験学習に関わった先生方に、谷戸の活動の意義や思い出話をしていただきました。



松尾崇鎌倉市長

公園の自然環境保全活動は、市民との協働がますます重要になることと思います。



内海勉総代 (山崎北野神社)

今の公園で昔は、冬場に家庭で燃やす桜や椎木、販売する薪や松を伐採しました。よく兄弟でシイタケをとりにも出かけました。



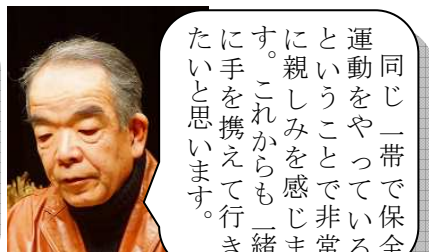
兵藤芳朗理事長 (鎌倉風致保存会)

我々は年数は少し早いですが、民間ファンドの活用、行政との関わり、市民の思いといったものはまだまだ学ばなくてはと思っています。



黒川弘理事長
(鎌倉広町の森市民の会)

当会は弟分と申しましょうか。貴会の活動や考えを参考にし、手を携えて、緑の保全のために頑張りたいと思います。



出口克浩代表
(北鎌倉の景観を後世に伝える基金)

同じ一帯で保全運動をやっているというところで非常に親しみを感じます。これからも一緒に手を携えて行きたいと思っています。



鹿川久美子さん
(元谷戸っ子)

自然探検隊で強烈だったのが沼に入ったことです。履いていた長靴が埋まってもらいました。



黒川真広さん (元谷戸っ子)

例えば田植えで、まー君はずーっと黙々とやるから真っ直ぐ並んでいるねとか、おばさんに言われたことをすごく覚えてるんですね。



田辺雅子元教諭
(2002 年当時深沢小学校)

最後の 6 年生は本当にすばらしい成長を見せたというところで心にひとつひとつ残っています。本当に谷戸の会のお蔭だったと思います。



藤倉正道教諭 (2006 年当時
教育支援教室ひだまり)

12 年前、農作業をひとつもやることがない子ども達が、みんな裸足になった田植えをしてのをよく覚えていてます。

第 2 部 ～～ビデオ上映～ 私たちの活動(はじまり、そして今)

谷戸の四季や保全活動の様子を記録したビデオ上映、公園になる前からの活動を含めたこれまでの歩みを映像で紹介しました。



ビデオ上映



これまでの歩みの映像

第3部～座談会～協働を深める

「時間をかけていい関係が築けてきた」「協働とはお互いのバランスが大切」「お互いの思い込みを解消していく」

「鎌倉には市民活動が根付き、行政が里山保全への意識を持っている」など、NPOによる谷戸保全の未来について、志村氏のコーディネートにより、行政の方々と意見交換をしました。（詳しい内容は次号にて紹介します）

コーディネーター 志村直愛氏

小磯一彦部長（鎌倉市都市整備部）

土屋志郎常務理事（鎌倉市公園協会）

相川明子理事長（当会）

黒川美加事務局長（当会）



ホワイエでの展示

これまでの10年という時間から未来へ向けての展示を行ないました。特に、力強い段ボール模型と今昔の比較写真に注目が集まっていました。



今昔の写真付きの段ボール模型

鎌倉駅地下道ギャラリーで当会の紹介展示をしました

3/22(月)～28(月)

10周年フォーラムでの展示に加えて、通りすがりの方に少しでも鎌倉中央公園がイメージしやすいように、土の匂いが感じられる展示を心がけました。多くの観光客が行き交う駅地下道18メートルのスペースには、収穫物であるたのくろ豆、稲束、綿、活動の写真、圧巻の段ボール模型などがずらりと並び、熱心に立ち止まる人の姿も見られ、当会を紹介する貴重な機会となりました。

10周年の報告コーナー



左壁面（会の紹介写真・年表など）



右壁面（風景写真・模型・頒布品紹介）

各班からのお知らせ



田んぼ班

★5/1(日)、3(火・祝) 田うない ★8(日) 畔の草刈り・苗床の草取り
★14(土)、15(日)、22(日) くろつけ ★28(土)、29(日) しろかき



4/17 種初蒔き

4月は、苗床に昨年収穫した種もみを蒔き、去年の稲株をひっくり返す「田うない」が始まり、5月に入ると、畔を作る「くろつけ」、田んぼを平らにならす「しろかき」と作業が続きます。6月初旬の田植えに向けての準備です。

新年度からの新しい仲間も増え、田んぼにも活気が出てきました。



畑班

★5/1(日) じゃがいもの芽欠き・土寄せ ★8(日) 植付け準備・草取り・耕し
★15(日) さつまいもの苗植え ★22(日) 大麦の収穫 ★29(日) 小麦の収穫・脱穀

穏やかな陽光のもと、さといもの畝作りをしました。何組かの親子連れと、女子高生も参加し、賑やかな歓声が弾けます。たくさんの人の手助けで、立派な畝ができ上がりました。

ウグイスやコジュケイなどの鳴き声の中、これからは大麦と小麦の収穫、さつまいもの苗植えや、たのくろ豆(大豆)の種蒔きなどで、谷戸は大忙しの季節です。



4/10 さといも畑の畝作り



雑木林管理班

★5/8(日) 薪作り ★6/19(日) 土手の手入れ
★6/26(日) 鎌を研いで草刈り



4/3 間伐材の整理

今年も炭焼き窯下のハナモモがみごとな花を咲かせ、新緑の季節になりました。

雑木林管理の作業も主な作業は終えて、冬の間に間伐した材を割って、秋の谷戸まつりなどで使用する薪を作る作業を残すだけになりました。

この後しばらくは例年通り、土手の草刈り、雑木林の下草刈りを行います。



農芸班

★6/15(水) 梅干し作り①(梅収穫・下漬)
★7/20(日) 梅干し作り②(赤ジソ仕込み)

今年度も梅仕事から農芸班の本格的な作業が始まります。おいしい梅干しを頬ばることができるのは、まだまだ先になりますが、谷戸の自然の恵みを体いっぱい味わっていきたいと思います。

手作りのよさ、楽しさを通して、谷戸の保全活動を知っていただけたらと思います。



去年の梅干しと赤ジソ



自然遊び班

3/13 (日)「父と子の里山体験」は、雑木林管理班とクヌギを伐採しました。高さ約 10 メートル直径 25 センチほどのクヌギの木に、のこぎり刃を上下に動かしながら食い込ませ、慣れない手つきに苦勞しながらも、お父さんやお母さんが活躍しました。子どもたちも 1 人ずつ木を切り、いよいよ倒れるというときには、みんなで固唾を飲んで見守りました。そのあと、竹を使ったお椀と箸作りをしました。親子で力を合わせた竹の食器ができ上がりました。

【参加者の感想】★普段できない経験をすることで、大人も子どもも楽しめました。★子どもや家族の箸が作れてうれしいです。自分で作った箸で、ご飯を食べるのが楽しみです。



今年の里山探検隊は小学 1 年生から 4 年生の 25 名のメンバーで活動します。4/24 (日) は朝から小雨が降り、参加者は 11 名でしたが、雨合羽を着て元気いっぱい谷戸を歩きました。冬の「紙漉き」のために、ヒメコウゾの木を探して目印の紐を結び、畑の草を取り、スコップで耕し、トロロアオイの種を蒔き、土にまみれて一仕事しました。普段は入れない畑や雑木林も歩き、班活動しているおじさんお婆さんの仕事ぶりを見て、お話を聞いて、谷戸に集う人たちがここを大切に思い、守っていることに触れる時間にもなりました。【子どもたちの感想】



★くさとりがむずかしかった。ヒメコウゾをさがすのがたのしかった (小 3 井上真悠子) ★すこっぷでほるのが

こども里山一日体験

★6/5 (日)「竹を使って昔あそび」

2 歳～小学生までの親子対象 定員 10 組
参加費：500 円 (会員以外の方)
た



生態系保全班

★5/11 (水)初夏のチョウの調査 ★6/8 (水) 梅雨時のチョウの調査
★6/4 (土)、18 (土) 夜の自然観察



4/25 チョウと樹木の間を観察する

冬にアシ原の手入れをしたところが、アシの新芽に覆われとてもきれいです。

カヤネズミの調査で、巣がどのぐらいになるか楽しみです。

水生の生きもの保全をめざし、湿地や田んぼのような環境を維持するために、手入れも引き続き行っています。



モンキチョウ



植物育成班

★5/25 (水)初夏の植物調査 ★6/15 (水) 野草生育地の手入れ作業

この春もヒメオドリコソウの除去をしています。カラスノエンドウなどが大きくなると、ヒメオドリコソウが隠れてしまうので、他の雑草と競争です。一本一本抜く作業は気が遠くなる思いですが、それでも何年も続けていくうちに、手ごたえを感じるようになりました。

モニタリングと合わせて継続していきたい



4/20 湿地の手入れ



4/25 ヒメオドリコソウの除去

谷戸の自然だより

～生態系から見た、里山の手入れ 谷戸の田んぼ その1～

生きものから見た谷戸の田んぼの特徴を、これから数回にわたって紹介します。並行して、季節の田んぼ作業と生きものの関わりについて考えてみます。

① 谷戸の田んぼはなぜ大切か？

【鎌倉には田んぼが残り少ない】鎌倉は樹木が多いので自然が豊かと誤解されますが、水辺の環境が貧弱です。池で遊べるような場所はなく、川はコンクリートの護岸に固められ下りることもできず、昔遊んだ田んぼもすっかりなくなり、小さな田んぼが10か所以下しか残っていません。

【田んぼがないと棲めない生きものがたくさんいる】田んぼといえばカエルやトンボを思い出しますが、それを餌にするヘビなど、多くの生きものが田んぼとその周辺に棲んでいます。バッタやコオロギなど田んぼに依存している昆虫も多いようです。また、田んぼにしか生えない雑草も多くあります。

② 田うないと生きもの

【田んぼの泥】田んぼに入ってみると、意外に泥が臭くないのに気づきます。田んぼの泥はヘドロではないからです。田うないをしながら、泥を観察すると、表面の灰色の泥の下に真っ黒い泥があるのが分かります。これがヘドロになりかけの泥です。“まんう”で起こして空気に触れることで、ヘドロにならずにすんでいます。20年ほど前になりますが、野鳥の会の人たちと、開園前の鎌倉中央公園でビオトープ（人工的に作った水の生物の棲家）を作りました。田んぼのように浅くした池で、最初のうちはたくさんのトンボが育ったのですが、3年ほどで底がヘドロ化して水質が悪くなり、生きものが絶えてしまいました。それなりに管理をして、ヘドロの対策をしましたが、思うようにいきませんでした。今から思えば、田んぼの農作業こそ、最適なビオトープの管理方法なのでしょう。谷戸の田んぼで生物調査をしていると、田うないをしたあと、急に生きものが増えるように感じます。田んぼの泥をかき混ぜることで、土壌の養分が溶け出し、ミジンコなどの微生物が増えるのかもしれません。田うないが始まる連休のころは、ドジョウやオタマジャクシ、水生昆虫など、水の生物の活動が盛んになるので、これらの生育を助けることになるのでしょう。

【くろつけと生きもの】くろつけの前には畔切りをします。畔の一部を壊して、新しく泥を塗り重ね、作り直すことで、田んぼの水漏れを防ぎます。畔を切ってみると、無数の穴が開いており、さまざまな虫が出てきて驚きます。いかに多くの生きものが畔を利用しているのか分かります。畔の土の中に泡のような卵塊を産むシュレーゲルアオガエルは、平野の田んぼでは見られない、谷戸田ならではのカエルです。農家の田んぼでは、畔をコンクリートで固めていますし、体験田と称される公園の中の田んぼでも、畔を板で囲い補強して、畔つけの手間を省いている場所があります。田んぼの生きものにとっては、畔を土のまま残すことが大切なのに残念です。くろつけや畔の草刈りなど、昔ながらの手間のかかる作業が里山の生きものを守っているのです。

ホタルの紙芝居を読んでもらえるボランティアの方募集！



谷戸はみなさんの里山保全活動のおかげで、田や湿地が守られ、ホタルが生息しています。毎年6～7月中旬まで、ホタルを観賞するためのマナーや、ホタルの生態を知っていただくために、青空自主保育グループ、町内会、小学校のご協力によって、手作りの紙芝居を上演しています。お友だちやご家族の方を誘って、紙芝居ボランティアに参加してみませんか。山崎の谷戸のホタルたちのために、ご協力よろしくお願いします。

日程：6/4、18、7/2、16

時間：18:30～20:30(閉園時間帯につき駐車場は利用できません)

集合場所：山崎口しいし前のベンチ

服装：長袖・長ズボン

お申し込み＆お問い合わせは事務局まで
電話 or Fax or メールにて



谷戸往来

谷戸往来

谷戸往来

「谷戸の自然だより」発刊！

2004年の当会発足以来、会報に連載している「谷戸の自然だより」を10周年の記念として、2012年までの46回分を1冊にまとめました。当会の活動の指針である「谷戸の生態系と景観の保全」を、主に生きもの（動植物）に視点を向けて、季節ごとに解説したものです。谷戸の自然観察をこれから始めようと思う方にも、また、これまで毎号楽しみに愛読されてきた方にとっても、貴重な資料となることと確信しています。



A4サイズ・42頁 頒価 500円

深沢中・玉縄中3年生による 里山保全作業 2/26(金)、3/4(金)

鎌倉風致保存会主催の市立中学生による里山保全作業が山崎の谷戸で実施され、当会は深沢中と玉縄中、総勢 360 名の指導に当たりました。生徒達にとっては使い慣れないのこぎりや刈込みバサミでしたが、谷戸はすっかりきれいになり、新しい春を迎えることができました。

かまくら認知症ネットワーク来訪

4/10(日)、総勢 26 名。谷戸歩きではツクシ、タンポポ、シヤガなど春の草花を見つけ、満開のハナモモの前で思わず集合写真！ その後は田んぼ班やボランティアの鎌倉学園生らと一緒に、稲の苗床の草取り作業、尾根道散歩、よもぎもち作り。認知症のご本人もご家族も自然の中でリフレッシュできたと喜ばれました。

広場で全員で
歌を楽しむ



稲の苗床の
草取り

オリエンテーション開催 4/10(日)

29 名が参加。10 周年フォーラムで好評だった会の活動紹介DVDを上映しました。これから始まる活動の様子がよく伝わったと思います。各班の紹介・プログラムの説明を聞いた後、うららかな春の谷戸を歩き、実際のフィールドを見学しました。



田んぼ前の畑にて